

ボローニャ大学協定留学（交換留学）月例報告書（2023 年 7 月）

文化政策学部 国際文化学科 4 年 外川内瑞季

留学生活最後の一個月は、たくさん旅に出た。イタリア、ヨーロッパをめぐったこと、そしてこの留学の振り返りについてお伝えしたい。

【フィレンツェ・シチリア】

まず、再びフィレンツェを訪れた。前はウフィツィ美術館だけで一日が終わってしまったが、今回はサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂、ヴェッキオ橋、ミケランジェロ広場など、観光スポットや街並みを楽しんだ。革製品店でお土産を買ったり、名物の Bistecca alla fiorentina（フィレンツェ風ステーキ）を食べたり、2 回目のフィレンツェを満喫できた。

さらに、シチリアにも行ってきた。シチリアは、私が日本でイタリア語を勉強していたときに見ていた語学番組で、舞台となっていた場所であった。何度も繰り返し見て勉強した映像のなかに自分がいることに、興奮が止まらなかった。実際に番組で訪れていた場所に行くと同じ景色を見たり、同じメニューを注文してみたりと、やりたかったことを達成できた。特に印象に残っているのは、チェファルーという都市だ。真っ青な海と空、そしてオレンジ色の屋根の景色が非常に美しかった。

イタリアも、北はボルツァーノから南はシチリアまで、この一年間で色々な場所を歩いたが、まだまだ行きたかったところばかりだ。ボローニャでさえも、実は心残りがある。これから（イタリアに限らず）留学する方へ、いつか行けるだろう、よりも、行きたいところには行けるうちに行っておくことをおすすめする！



Bistecca alla fiorentina



シチリア・チェファルーにて

【ヨーロッパめぐり旅行記】

留学生活最後の旅行では、ドイツ・ポーランド・ベルギー・フランス・スイスをめぐった。ドイツのミュンヘンで高校時代の先輩・後輩の方々と再会したり、スイスの国際連合ジュネーブ事務局を見学したりと、とても思い出深い出来事ばかりだった。そのなかでも特に印象に残った場所について、詳しく書きたい。

まずポーランドでは、アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館を訪れた。日本語ガイドの方の説明を聞きながら、この地で何が行われたのか、どれほどの命が奪われたのか、を突き付けられた。被害者だけではなく、加害者の視点からも考え、現在も残る社会課題・問題を考える材料を与えられた。

次に訪れたベルギーでは、EU本部のあるブリュッセルにて、欧州議会を見学した。日本で、ボローニャで学んだEUに実際に訪れることができとても感動した。重要な会議が行われる部屋や、Parlamentarium という博物館を見学した。特に博物館はとても大きく、EUやヨーロッパの辿ってきた歴史について、楽しみながらもかなり詳しく学べる施設だった。時間が足りなく駆け足の見学だったが、このようなものが全ての人に対して無料で開かれていることに驚いた。

また、アントワープ、そしてディナンという都市にも行った。ディナンは、サクソフォンを発明したアドルフ・サクスの故郷である。彼の生家や、美しい街のいたるところにサクソフォンのモニュメントがあり、私にとっては夢のような場所だった。



↑ディナンのサクソフォンモニュメント
←ブリュッセルの欧州議会（上）と
欧州委員会本部（下）



ビルケナウ強制収容所

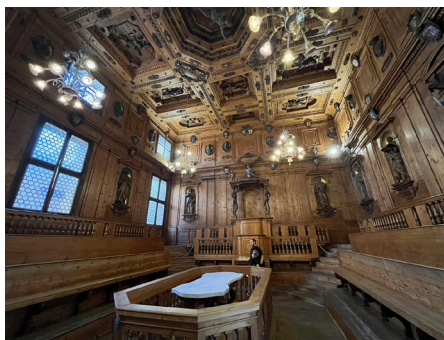


国際連合ジュネーブ事務局

【留学を振り返って】

ついに、約一年間の留学が終了してしまった。

留学中は、自分自身に向き合った時間がとても多かった。留学生活前半は特に、憧れの留学が始まったことや新しい出会いにワクワクしていた一方で、理想通りにいかない日々、周りの人々と比較する自分、変わらない・変われない自分に対して、よく落ち込み、失望していた。大学の授業でもとても苦勞した。しかし、現実を認めて、自分は何がしたいのか、自分の目標は何だったか整理し、乗り越えた経験はとても大きな自信となり、今後の人生においても必ず生きると信じている。



世界初の人体解剖が行われた
アルキジンナジオ

ボローニャ大学で勉強できたこと、目標を達成できたこと、たくさんの友達ができたこと、色々な場所を訪れたこと、…。この一年間では、今後の私の人生に彩りを与えてくれる経験ばかりできた。個人的なことだが、私は元々2020年の秋から留学を始める予定だった。しかし、新型コロナウイルスの影響により留学が中止となり、卒業を遅らせたうえで待ちに待っての留学だった。

これからの人生においても、思い通りにいかないこと、さまざまな選択や決断をしなければならないことがあるだろう。しかし、自分で考えて決めたことならば、どんな道を選んでも、きっと私は幸せだろう。留学を終えたいま、強く思うことだ。

海外で、ヨーロッパで一年間過ごして、良い面も衝撃を受けた面もある。同時に、外から見た日本の素晴らしさ、特異さも実感した。それらを知った上でも、私はやっぱり海外が、ヨーロッパが好きで、将来も関わり続けたい。ボローニャの友人たちと別れるときも、皆さんから必ずかけられた言葉は、「また戻ってくるでしょう？」だった。Assolutamente sì! (はい、絶対に！)



マッジョーレ広場

最後に、留学が実現できたこと、素晴らしい一年間を過ごすことができたのは、たくさんの方々のおかげだ。先生方、教務・学生室の皆さま、ボローニャと日本の友達、そして誰よりも、いつも遠くで、すぐそばで支えてくれた家族、両親に心から感謝している。

本当に、ありがとうございました。Grazie di cuore a tutte e tutti!!

